

所蔵品展

神様のお使いに選ばれた生き物展

- 1月6日(月)～ 3月26日(木)
- 3階郷土資料室展示コーナー

新春にちなみ、神様にゆかりのある縁起のよい生き物たちが描かれた絵や引札などを紹介します。



初出展

高木美石による虎の絵です。虎は毘沙門天のお使いとされています。

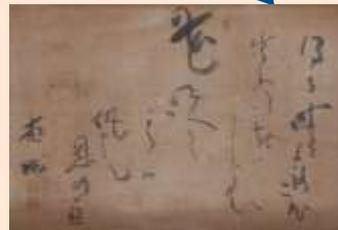
高木美石筆『淡彩画 虎』（当館蔵）

墨俣の俳人 熊谷夜城展

- 2月1日(土)～ 3月26日(木)
 - 墨俣図書館展示コーナー
- ※墨俣での展示は今回が初めてです。

墨俣の俳人熊谷夜城に関連する資料を展示します。

熊谷夜城は、明治時代の墨俣町の人で、俳句や短歌、漢詩に優れた人だったんだよ。



熊谷夜城俳句（当館蔵）

大垣に伝わるむかしばなし④

『神さまになった狐』



江戸時代の終わりごろから、明治の初めにかけての昔のこと聞いています。

船町の町中で通行人が、狐(きつね)にだまされて、困ったというのです。

ある人は、自分の歩いている道がわからなくなって、同じところを何べんもグルグルと歩きまわったというのです。

またある人は、家に帰る道がわからなくなって、何度もわが家の前を通り過ぎてウロウロしているところを近所の人に教えられ、正気に戻ったというのです。

そんなことが続いては困ると、町内の三輪、守屋、上田などといった旧家、有力者二十人ほどが、集まりました。そして、その狐が町内の人たちを化かしたり、いたずらして迷惑をかけないようにするためにはどうしたらよいか相談しました。

そこで、京都の伏見稲荷さんにお詣りしてお稲荷さんの分身をお迎えしてお祀りし、町内を守ってもらうことになりました。

伏見稲荷山の山頂近くの「長者社」(剣石のあるところ)に玉岡塚を建立し、町内に祭祀した祠は玉岡稲荷と称えられ、毎年二月初午(はつうま)の日のお祭りや、毎月一、十五日には参詣が行われました。

三輪さんの話では、慶応元年(一八六五)に勧請され、明治十二年(一八七九)船町の大火のときの見取り図にも記されていたそうです。祠の下の石垣には、狐の住み家となっていた穴が、今も残っているそうです。

出典…『大垣むかし話100話』大垣市企画広報課・編

『大垣むかし話100話』は、大垣市電子図書館でも読むことができます。